

「10月のアンケート」へ、ご多忙の中の御回答、ありがとうございました。

## Q 理科の教科担任制はどうですか

選択肢 ①すでに教科担任制 ②2学期から教科担任制 ③今のところ検討中  
 以下、いくつかよせられた声を紹介させていただきます。

② 校長の説明は、子どものためではなく区の方針だから実施というもの。理科だけでなく、社会科、家庭科、体育（強制で合同）なども。

② 図工の先生が担当させられて、かわいそうだ。

③ 急ぎすぎ。学級経営のことは考えていないのか。

③ 理科は準備や後始末が大変。専科がよい教科だと思う。

① すでに教科担任制であり、お互いに得意な教科なのでよかったが、単学級など学校によって状況は様々なので、状況に合わせて考えるべき。

② せめてこのような大きな変更をするなら、年度初めからにして欲しい。

◆ 多かったのは、年度途中での変更への不安や不満、学級経営への影響の不安でした。担任として理科をやりたい、交換授業ではない専科を望む声もありました。さらに今の実態、ご意見をお知らせください。

**人事異動に取り組みました**

支部執行部は11日、異動希望の実現に向け、区教委へ要請を行いました。異動を希望された方の事情を伝え、それに沿った具申を都教委へ行うよう求めました。また前日10日都教組本部へも援助を要請しました。今後、妊娠、転居などで当初と条件が変わられた場合はすぐに管理職に相談することが大切です。

11/26

# 東京教研全体会

午後6時30分開演 荏原文化センター

支部からの  
発信もある

講演「競争の教育から  
助け合いつながり会う教育へ」

世取山洋介氏  
新潟大学教授

10月  
支部教研

## 基本的な知識が身に付く分かりやすい 楽しい実験の数々でした



10月15日、支部教研集会の第6弾「科学を学ぶ楽しさを子どもたちに」講師小佐野正樹先生（科教協）が開催されました。諸行事の忙しさのせいか、参加は20人弱と、いつもよりは少なめでしたが、繰り広げられた楽しい実験の数々を、目の前で堪能することができました。

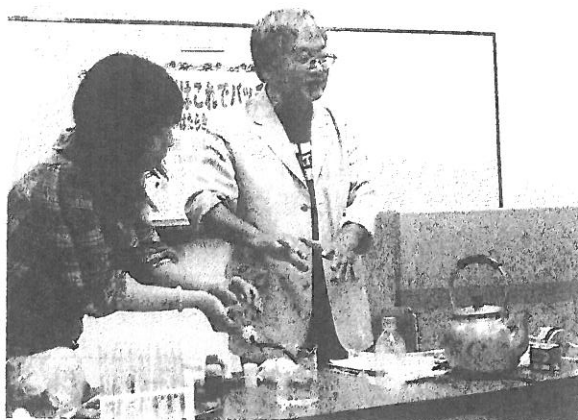
### 小佐野先生のプランと実験の例

(4年)「もののとけかた」・「とける」イメージをあたえよう。塩一粒をスライドグラス上でとかし、一瞬で見えなくなる様子を2人組で顕微鏡観察。・とける、とけないものを濾過で区別する。(食塩と炭酸カルシウム)(ベンガラとクエン酸鉄アンモニウム)・とかすと全体の重さは変化するか……・食塩は水と同じようにアルコールにもとけるか……

(6年)「水溶液の性質」・クエン酸の性質を調べよう。(クエン酸はなめることもできる、食物に含まれる酸)・酢酸(原液)と酢酸水溶液を比べよう。どちらがチョークをよく溶かすか。・酢酸を薄めていくとチョークが溶けなくなるが酸性ではなくなったのか。(ごく薄い酸、アルカリでも調べる方法→リトマス紙)……・重曹は酸の働きをするだろうか。(水酸化ナトリウムは大変危険なアルカリなので、重曹をアルカリを代表する実験材料に)

### 小佐野先生の基本姿勢

- ・データ取りの実験ではなく、物質の基本の性質が分かる実験をしよう。
- ・簡単な材料、道具で、結果がはっきりと見える実験を工夫しよう。
- ・実験(問題・課題解決)の前に、子どもたちが討論できる時間を置こう。それが子どもたちの学びのつながり、人としてのつながりをつくる。
- ・自分たちの生活にどのような関係があるのかを知らせよう。理科を学ぶことが楽しくなる。……



「空気は手のあたたかさで膨張……」



「巨峰の皮をつぶして液をとると、酸、アルカリの指示薬になるんですよ。リトマスというのは苔なんです。私たちの身近な生活の中にもいい実験材料があるんです。……こちらはレモンの汁、こちらはパイプ洗浄剤です。巨峰の液の中に入れてみると……」

会場一同、驚き、感激の歓声。